

ジュニアゴルファーにゴルフ場開放の扉を開いた我孫子ゴルフ倶楽部の挑戦

開場85年の歴史がある我孫子ゴルフ倶楽部は数々の地域貢献事業を実施し、地域社会との交流を深めている。また、良質なジュニアゴルファー育成を目的とした小学生大会の実施や独自のジュニア育成システムを構築するなど底辺拡大にも尽力している。これらの取り組みの意義や効果を我孫子ゴルフ倶楽部の富田浩安理事長が語った。



地域貢献事業やジュニアゴルファー育成の取り組みについて語る富田浩安理事長。

—— まずは、どのような地域貢献事業を行っているのかをお聞かせください。

富田 春にはコース内の桜を楽しんでいただく我孫子市民観桜会を実施しています。今年で12回目となり、地域の催しとして定着してきた感があります。来場者は年々増え、今年は約2500人にも達しました。観桜会では桜を見るだけでなく、市民の方が楽器の演奏を披露するなどのイベントも開催しております。また、我孫子市福祉協議会主催の『こもれびゴルフ教室』や近隣中学校の職場体験の場として使っていただいていますし、我孫子市民ゴルフフェスタや千葉県のゴルフフェスタなどで市民・県民ゴルファーにコースを開放するなど、さまざまな形で地域のみなさんとの交流を実施しています。

—— 地域貢献事業の意義はどのように考えていますか。

富田 私はここに入会して54年ほどになります。我孫子ゴルフ倶楽部は現在、一般社団法人ですが若いころから先輩方に聞かされていたのは「公益法人としての役割を果たす」ということです。その延長線上に立って地域と共生していくためには何をすべき

かと考え、さまざまなことに取り組んでいるのです。観桜会に来られた方からは「こんなきれいなゴルフ場でお花見ができるなんて幸せです」という声を多くいただいております。コースを開放した甲斐があったと思いますし、もっとこのような機会を増やせないかと考えているところです。

—— ジュニア育成にも非常に熱心だとうかがいました。

富田 2014年から関東一円の小学3年生から6年生を対象とした小学生ゴルフ大会を実施しています。例年70人前後のお子さんが参加して18ホールのスロークプレーを行い、男女それぞれの優勝者、そして私共が特に有望と思われる選手には当倶楽部のコースや練習場を1年間無償で利用できる特典が与えられます。大会は最初、手探り状態で開催しましたが、参加してくださった選手や親御さんから「またやってほしい」という声をいただき、慣例化することになりました。トーナメントに参加することでとても刺激を受けたところがあったようです。

—— ジュニア育成事業をスタートさせた経緯はどのようなものでしょうか。

富田 ゴルフ界を発展させていくには次世代をなうジュニアの育成が非常に大切です。しかし、残念な

がジュニア人口が拡大していないという現実があります。なぜなら、ジュニアゴルファーの環境が整っていないからとっております。日本の大多数のゴルフ場はプライベートクラブです。その中でジュニアに開放しているところは、いまだごく一部でしかありません。私はかつて世界アマや日米大学対抗に携わりましたが、その時に外国の監督から「日本のゴルフはエリートスポーツだ」と言われたことがあります。家がお金持ちであるなど、恵まれた環境の子供たちしかできないという意味です。それくらい海外から見ると日本はお金がかかるということなのです。これではジュニアの人口を増やすことはできません。「ゴルフ場の開放、しかも安価でプレー可能に」が日本のジュニア育成にとって、今一番必要なこととっております。そこで、我孫子が先鞭をつけさせてもらい、全国に広めていきたいという思いでジュニアへの開放を理事会に諮り、決定いたしました。

—— ジュニアを受け入れるには倶楽部の会員の理解が不可欠だと思います。

富田 とても大事なところですね。まず、会員のみなさんに対しては会報、掲示版、ホームページ、



参加者から好評を得ているジュニア育成事業の一環として開催される小学生ゴルフ大会。

あるいはジュニア委員会の活動を通じて「ジュニアに練習場やコースを開放」について会員より理解を得られるようできる限り行いました。そして、開放すると共に当倶楽部のジュニア育成委員会が中心となって子供たちにエチケットやマナーについても指導してもらいました。やはり会員のみなさんに受け入れてもらうにはエチケットやマナーがしっかりしていることが不可欠です。あいさつもできないようでは「あんな子はいれないでくれ」となってしまいますから。今のところ会員のみなさんも非常に協力的で、理解を得られていると感じております。

—— 初めてのジュニア育成強化選手が今年、我孫子GCで行われた日本オープンドリームステージでトップ通過を果たした田中章太郎君ですね。

富田 そうです。2年前になりますが、彼は小学校6年生の時に特に将来性のあるジュニアとして関東ゴルフ連盟から米国のIMGゴルフアカデミーに派遣されています。その報告会で田中君と話をする機会がありまして、我孫子の隣の取手市在住だと分かり、「それならうちで練習しないか」と声をかけさせてもらったのです。当時、すでに270ヤードほど飛んでおり有望だと感じたことも声をかけた大きな理由でした。田中君は第1号ですから成否のカギを握っている存在でもありました。ですから、ジュニア育成員の皆さんがエチケット、マナーについても厳しく指導したようです。今では後から入ってきたジュニアの指導をするまでになってくれましたから頼もしく感じています。

—— 現在、ジュニア育成強化選手はどのくらいいるのですか。

富田 13人です。小学生大会の優勝者のほかに、この子は有望だなと感じたお子さんにも声をかけさせていただいていますし、逆に「優勝できなかったけどやらせてください」と言うケースもあります。頼まれた場合は、ゴルフの腕前もありますが、どのくらい情熱があるかということも選考のポイントです。基本的に有効期限は1年間なのですが、特に問題がなければ自動更新しています。ですから、どんどん増えてきましたね。私は1人で練習するよりも友達同士で競い合ったほうがよりうまくいっていきと考えております。強化選手は1人、2人よりも多いほうがいいのです。たくさんの子供たちが一緒になって練習することでお互いに刺激を受け、競争しながらうまくなっていく。そういう意味で、いい形になってきていると感じます。

—— 親御さんの反応はいかがですか。

富田 非常に喜んでいただいています。思いきり練習をできる環境に加え、特に経済的な負担が減ったことが大きいようです。

—— 親御さんに何か伝えていることはありますか。

富田 さまざまな意味で発育期のお子様「あまり無理をさせないように」ということは申し上げています。たとえば発育途中で無理をすれば体形がくずれなど悪影響が出てお子様のもつ可能性をつぶして

しまいますから、そこは考えてくださいということです。私は、中学生くらいまではいろいろなスポーツをやったほうが良いと考えています。物心ついたところからゴルフだけというのは意外に伸びないものです。また、スコアに対して厳しすぎることを言わないようにともお話ししています。ご父兄が「スコアがすべて」という方針だと、子供さんも「結果がよければそれでいい」という間違った考えに陥ってしまいます。あまり最初から結果にこだわりすぎますと、伸び伸びとしたスケールの大きい選手には育たないことがわかっています。それに加え、結果が出ますと、急に態度が大きくなってしまいがちで、エチケットマナーもどこかにいってしまうことがままあります。ですから、小学生のうちからゴルフではマナーやエチケットが大事だということをきちんと教えていくべき。強いゴルファーを育てることは大事ですが、それ以上に将来社会人としても通じる立派なゴルファーを育てていきたいと考えています。あとは、学校の勉強もきちんとやりましょうということですね。ゴルフで成功できるのはごく一部。大多数は一般社会に出ていくわけですから、ゴルフだけに打ち込み勉強をしないまま社会に出れば後で自分が苦しむだけです。ジュニアの時代にやるべきことはきちんとやっておいてほしいと思います。

—— ジュニア育成事業の将来像はどのように描いていますか。

富田 我孫子の小学生大会で優勝すれば無料で練習できるということが広まって、よりいい選手が集まればその中から素晴らしい選手が育つ可能性が高まります。将来的には我孫子育ちの「世界の〇〇」と呼ばれるような選手が出てきてくれれば、ジュニア育成事業に大いに貢献することになりますので本望です。テニス界で錦織選手が世界に活躍しているおかげで、日本のテニス人口がかなり増えていると聞いています。ただし、これは我孫子だけにとどまっていはいけないことです。先ほども申し上げましたが、我孫子が先鞭をつけることで多くの倶楽部が「うちの倶楽部でもやろう」という流れになっていただきたいのです。それが底辺の拡大、ひいては世界に通用する素晴らしい選手の育成につながるのです。かつてのスーパーstar、タイガー・ウッズ選手が出現した時に、米国のジュニアゴルファーが大幅に増加した実例があります。日本では、ジュニアから育った石川遼、松山英樹プロが世界で活躍しておりますが、ジュニアにそのような夢と希望を与えられるようなスーパーstarを育てることが、ゴルフ界への貢献になると考えております。我々には次世代を育てる責務があると考えております。「ゴルフ場のさらなる開放」に向けてこれからも挑戦し続けてまいりたいと思っております。

—— 期待しております。本日はありがとうございました。



ジュニア育成強化選手 田中章太郎君インタビュー

ジュニア育成強化選手第1号で現在中学2年生の田中章太郎君は週末になると午前9時には我孫子GCを訪れ、練習に励んでいる。「とてもいい環境で練習させてもらって感謝しています。

以前はラウンドが2週間に1回くらいでしたが、今では週に2回できるようになったので、すごくうまくなりました。特に苦手だったグリーン回りやバンカーがすごく

上達して、試合でもいい成績を出せるようになりました」と効果を実感している様子だ。今年は日本オープンドリームステージトップ通過のほか関東ジュニア5位、日本ジュニア11位などの成績を残した。ラウンドは原則としてジュニア育成強化選手同士の組み合わせ。「(強化選手と)一緒に回ると勉強になりますし、ライバル関係のようなところもあるのでお互いに刺激を受けながら技術を高められるところもあります」と言う。切磋琢磨しながら成長していける理想的な環境であることが伝わってきた。